

提案内容の実践及び先進事例について

令和3年3月

目 次

【実践事例】

- 1 「バリぐる」に係る調査事業について
(一般社団法人神奈川県建築士会)
- 2 専門職連携による住宅改修研修会について
(一般社団法人神奈川県建築士会)
- 3 ボランティア・市民活動の支援や地域福祉活動の実施に向けた取組みについて
(社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会)
- 4 視覚障害者によるバリアフリー教育について
(NPO法人神奈川県視覚障害者福祉協会)
- 5 障害当事者による出前講座、災害時の障害者支援を考える研修について
(NPO法人神奈川県障害者自立生活支援センター)
- 6 高齢者向け住宅改造施工業者の登録・研修事業等について
(公益社団法人かながわ住まいまちづくり協会)
- 7 交通バリアフリー教室の開催協力等について
(一般社団法人神奈川県タクシー協会)
- 8 災害時の聴覚障害者の支援のための活動等について
(公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会)
- 9 民営鉄道のバリアフリー化への取組みについて
(一般社団法人日本民営鉄道協会)
- 10 アリオ橋本の取組みについて
(日本チェーンストア協会関東支部)
- 11 株式会社東急ストアの取組みについて
(日本チェーンストア協会関東支部)
- 12 「交通バリアフリー教室」・「バスの乗り方教室」の開催について
(一般社団法人神奈川県バス協会)
- 13 JRにおけるバリアフリーの取組みについて
(東日本旅客鉄道株式会社横浜支社)
- 14 「知的障害と「警察」」について
(神奈川県手をつなぐ育成会)
- 15 わかりやすい情報提供のガイドラインについて
(神奈川県手をつなぐ育成会)
- 16 保健福祉事務所による普及啓発活動について
(神奈川県)
- 17 「オリンピック・パラリンピックのための神奈川ビジョン2020」について
(神奈川県)
- 18 「カラーバリアフリー研修」の開催について
(神奈川県)
- 19 「福祉のまちづくり研修会」の開催について
(神奈川県)

- 20 県庁本庁舎トイレの「みんなのトイレ」化について
(神奈川県)
- 21 車いす使用者用駐車区画のカラー塗装について
(神奈川県)

【先進事例】

- 22 「福祉を考える会」と地域作業所「ダンボ」による事業について
(認定NPO法人神奈川県子ども未来ファンド)
- 23 「聴導犬育成の会」による事業について
(神奈川県)
- 24 知的障害・発達障害の子ども達への理解者を増やすための公演活動
(神奈川県)
- 25 子ども・若者の貧困や虐待に対する助成と発達障害者への支援について
(認定NPO法人神奈川県子ども未来ファンド)
- 26 「さいとうさんち」などの居場所運営による地域福祉への貢献
(神奈川県)
- 27 音楽活動による知的障害者の就労支援
(神奈川県)
- 28 視覚障がい者向けサービスとメイクセミナー開催
(神奈川県)
- 29 障がい者の社会参加支援・共生社会づくりへの貢献
(神奈川県)
- 30 多感覚で楽しむアート展「美術館まで(から)つづく道」
(神奈川県)
- 31 小田原バリアフリーマップ作成による優しい街づくりへの挑戦
(神奈川県)

【添付資料】

- 1 事例8のA3リーフレット
(公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会)

提案内容の実践事例・先進事例

団体名 (一社) 神奈川県建築士会

分類	① 自団体が実践している取組事例 2 他団体による先進的な取組事例
区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p>1 名称 「バリぐる」（携帯電話サイトによる情報提供事業）に係る調査事業<22年度事業> なお、「バリぐる」は「バリアフリー」と「ぐるめ」を併せた造語です。 また、現在は情報提供事業ですが、平成22年度当時は携帯電話サイト構築事業としていました。</p> <p>2 目的 平成22年度 神奈川県（当時は障害福祉課）の委託を受けた特定非営利活動法人神奈川県障害者自立生活支援センター（以下「KILC」という。）が、車いす利用を中心とした障害者の生活を側面から支援するために、実施する携帯電話サイトによる情報提供構築事業の一環として、社団法人神奈川県建築士会 技術支援委員会 福祉部会（部会長：下村旭、延べ人数23人）が、本厚木駅周辺の飲食店を対象にして、トイレなどの整備状況について調査して報告したものです。</p> <p>3 団体等 「バリぐる」は、携帯電話サイトによる情報提供事業であり、KILCがこれを構築して運営していますが、社団法人神奈川県建築士会 技術支援委員会 福祉部会はこれに必要な調査の協力を行ったものです。</p> <p>4 内容 平成22年8月2日から5日までの4日間、部会員延べ23人を要して、本厚木駅周辺の飲食店、67店舗に対して、トイレ、駐車場、飲食施設などの整備状況について調査しました。また、同福祉部会の調査結果を発表した報告会（同8月6日）では、次のような意見・感想が発表されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 本厚木駅周辺の道路は車椅子利用者には使いやすい状況と思われる。 ② 水周りの関係からどうにも改善できない、通路の幅も狭い、トイレも昔と変わらず60cmという開口部が多く存在するのは、店側が車椅子利用者を意識していないからだろう。

③ 車椅子を利用する女性にとって、特にトイレが使えないのは心細いのではないかなど

5 「バリぐる」への反映

同福祉部会による調査結果は、「バリぐる」（携帯電話サイトによる情報提供事業）における県内8地域の「オススメのお店！！」などという情報提供の裏づけ調査として大いに寄与しているものです。なお、同「バリぐる」サイトの中でも（社）神奈川県建築士会（同福祉部会）が協力している旨が記載されています。

6 「バリぐる」の活用等

(1) 紹介の内容（主なもの）

- ・「オススメのお店！！」 店に向かうときに最寄り駅などの外況が二段差がなく、店の出入り口にも段差がなく、店内では車いすに乗ったまま飲食ができ、化粧室は車いす対応型または多目的・多機能トイレが店内や建物内にある場合
- ・「近くにあるトイレ」 お店から「〇〇メートル」などと紹介しています。

(2) 紹介店舗数

- ・ 「オススメのお店！！」 県内約700件
- ・ 同上のお店とトイレ以外はOKなお店を併せると 県内約1,500件

(3) 活用方法

- ・ トップ画面の「オススメのお店！！」をクリック、→ 県内8地域の「オススメのお店！！」（近くの店ごとに一覧）が出てくる → その一覧の中から「行きたい店」をクリック → 入り口の段差や店内の様子、化粧室ができるかがわかります。「近くにあるトイレ」も照会しています。なお、地図もあって便利です。
- なお、<http://barigoo.com>/携帯電話のみのアクセスとなります。

提案内容の実践事例・先進事例

団体名 (一社) 神奈川県建築士会

分類	① 自団体が実践している取組事例 ② 他団体による先進的な取組事例
区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p>1 名称 「専門職連携による住宅改修」研修会 ※平成27年度は名称変更 「住宅改修ワークショップ」～なぜバリアフリーじゃない住宅が多いの?～</p> <p>2 目的 情報社会の複雑化と超高齢社会の進展で専門職連携の必要性がより一層求められている。住宅改修も例外ではなく、ケアマネジャーが理由書を作成する上で、身体的な評価は理学療法士及び作業療法士、そして住まいの効果的な改造の提案は建築士が担うことで、高齢者の在宅における継続居住のより効果的な改善をはかることができる。本研修会を通して、建築士だけでなく、ケアマネジャー、理学療法士、作業療法士に医療、介護、建築の連携の意義を浸透させ、各職能の理解を図りながらスキルアップを行うことを目的とする。</p> <p>3 団体等 主催 一般社団法人神奈川県建築士会 技術支援委員会 福祉部会 後援 公益社団法人神奈川県理学療法士会・一般社団法人神奈川県作業療法士会 特定非営利活動法人神奈川県介護支援専門員協会</p> <p>4 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各団体から選出されたファシリテーターによる事前会議の開催 ② 「専門職連携による住宅改修」研修会の開催 <ul style="list-style-type: none"> a. 理学療法士・作業療法士による疾病・障害の講義 b. 建築士による住宅改修事例の紹介 c. 事例検討（他専門職との交流、グループワーク）※平成27年度はグループワークに特化 <p>5 開催実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 平成24年3月17日 横浜市社会福祉センター 大会議室 ② 平成25年3月16日 平塚市民センター 中会議室 ③ 平成26年3月21日 はーと友神奈川 多目的研修室 ④ 平成27年3月14日 横浜情報文化センター 7F 小会議室

提案内容の実践事例・先進事例

団体名 (福) 神奈川県社会福祉協議会

分類	① 自団体が実践している取組事例 ② 他団体による先進的な取組事例
区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p>1、自団体が実践している取組事例</p> <p>①ボランティア・市民活動の支援</p> <p>a. 当事者活動、ボランティア活動への関わり合いを通じ、当事者がもつ「力」に寄り添い、ボランティアや専門職（機関）が協働し、「ともに生きる福祉社会づくり」の実現に向けた多様な取り組みを推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村社協ボランティアセンター等との協働 <ul style="list-style-type: none"> -市町村社協ボランティアセンター担当者会議・研修等の実施 ・セルフヘルプ・グループ活動支援 <ul style="list-style-type: none"> -セルフヘルプ活動支援者会議・セミナー等の実施 ・セルフヘルプ・ボランティアコーナーの運営 <ul style="list-style-type: none"> -ボランティア活動情報等の収集と提供、ロッカー貸出等による活動支援等 <p>②地域福祉活動の充実に向けた取り組みの実施</p> <p>a. 世代を越えて思いやりや助け合いの心を育みながら、障害のある方の就労や交流を促進します。また、当事者・ボランティアグループへの活動支援、協働を通して住民主体の地域福祉活動の充実を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「福祉作文コンクール」の実施 <ul style="list-style-type: none"> -県内小中学生対象、年1回、通算42回 ・障害者が働く場である「ともしびショップ」支援 <ul style="list-style-type: none"> -店長会議・研修・設備助成等 ・ともしび基金による地域福祉活動支援事業 <ul style="list-style-type: none"> -当事者・ボランティア団体への活動助成等

提案内容の実践事例・先進事例

団体名 NPO法人神奈川県視覚障害者福祉協会

分類	① 自団体が実践している取組事例 ② 他団体による先進的な取組事例
区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p>視覚障害者の理解・啓発事業の実施（平成25年度の実績）</p> <p>1. 総合学習への協力</p> <p>市町村の団体として、小・中学校等に対して、総合学習への協力を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施市町村：横浜・川崎・相模原を除く県内全域の10市町村 ・実施回数：80回 ・参加人数：113名 ・当事者が中心となって1名～3名など対応は異なる ・地元からの依頼により対応している。 <p>2. ボランティア育成に協力</p> <p>市町村団体を中心に、社会福祉協議会などが実施するボランティア育成事業に協力している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施市町村：横浜・川崎・相模原を除く県内全域の10市町村 ・実施回数：16回 ・参加人数：28名 ・当事者の対応で実施している。 <p>3. 一般への啓蒙</p> <p>一般の会社、自治会向けに啓蒙活動を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施市町村：横浜・川崎・相模原を除く県内全域の2市町村 ・実施回数：3回 ・参加者数：3名

提案内容の実践事例・先進事例

団体名 NPO法人神奈川県障害者自立生活支援センター

分類	① 自団体が実践している取組事例 ② 他団体による先進的な取組事例
区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p>1 「障害者理解出前講座」の実施</p> <p>①趣旨 企業等における、障害者の受入れのための取組みを支援するため、障害当事者による、障害種別ごとの説明や支援方法の実技等を行う出張講座を実施する。</p> <p>②内容 公共交通機関、宿泊施設、百貨店、飲食店、金融機関などの、障害者に接する機会が多い企業が実施する、職員研修などに、障害当事者等の講師を派遣し、障害者の受入れに係る内容を講義・実演する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な障害の説明 ・視覚、聴覚障害者への接し方 ・車いす体験と介助方法 ・補助犬について 等 <p>③実績 平成24年度 30回実施 948名参加 平成25年度 40回実施 740名参加 平成26年度 38回実施見込み</p> <p>2 「災害時の障害者支援を考える研修」の実施</p> <p>①趣旨 東日本大震災の際の障害者の体験を広く周知することにより、バリアの無い社会づくりを目指す。</p> <p>②内容 東日本大震災の記録映画（「逃げ遅れる人々～東日本大震災と障害者」）の上映と、福島県で被災した障害当事者の話しを通して、障害者と地域との関わり、障害者支援の在り方、施設整備等の取り組み等について考える研修会を要望に応じて実施する。</p> <p>③実績 平成26年度 17回実施</p>

提案内容の実践事例・先進事例

団体名 (公社) かながわ住まいまちづくり協会

分類	① 自団体が実践している取組事例 2 他団体による先進的な取組事例
区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p>①② 高齢者向け住宅改造施工業者登録事業者向けスキルアップ講習会の実施 県内で施工する工務店やリフォーム業者を対象に高齢者(障害者)向けの住宅改造講習会を実施し修了者を登録しているが、これら登録事業者の登録更新に併せバリアフリー機材等の新しい知見を習得いただく講習会を実施している。(令和2年度17者受講)</p> <p>④ 公共・公益施設バリアフリー推進事業 神奈川県みんなのバリアフリー街づくり条例に基づく既存建築物のバリアフリー化を促進するため、施設管理者に対し改修方法や資金計画に関する助言を行う専門家(バリアフリーアドバイザー)の派遣等を行っている。(地域福祉課の委託事業)</p>

提案内容の実践事例・先進事例

団体名 (一社) 神奈川県タクシー協会

分類	① 自団体が実践している取組事例 2 他団体による先進的な取組事例
区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p>1. 交通バリアフリー教室の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関東運輸局または神奈川運輸支局が主催 ・神奈川県タクシー協会、神奈川県バス協会等が協力 ・交通バリアフリーについての理解を深めると共に、ボランティアに関する意識を醸成し、高齢者・身体障害者等に対し、自然に快くサポートできる「心のバリアフリー」を目指すことが出来るよう交通バリアフリー教室を開催している。 ・平成17年から現在まで開催、令和2年は6回開催し、1回あたり、準備含めて約3時間、神奈川県全域の小学校を中心に実施している。 ・会員タクシー事業者からは、ユニバーサルデザインタクシー、福祉タクシー（リフト付き）を持ち込み、車両設備、体験をとおして説明している。 <p>2. UDタクシーの導入とユニバーサルドライバー研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度から、県内全域にユニバーサルデザインタクシーの導入を進めている。（959台導入）※令和2年3月末日現在 ・それに伴い、ユニバーサルデザインタクシーに乗務する運転者には、高齢者や障害者に関する基本的な知識や技術を身につけ、安心してタクシーに乗っていただけるための「ユニバーサルドライバー研修」を実施している。 ・研修は、平成24年度7月から実施し、タクシー協会開催の研修会受講者は、現在3,278名が受講している。※令和3年2月末日現在 <p>3. UDタクシー専用乗り場とUDタクシー対応乗り場の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政や団体、関係者皆様のご協力により、 「横浜駅東口」UDタクシー専用待機レーン 「川崎駅東口・西口・北口・中央口」UDタクシー対応乗り場 「新川崎駅」UDタクシー専用乗り場 「登戸駅」UDタクシー対応乗り場 が設置されております。

提案内容の実践事例・先進事例

団体名 (公社) 神奈川県聴覚障害者協会

分類	① 自団体が実践している取組事例 ② 他団体による先進的な取組事例
区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 将来を担う子どもに、聴覚障害者、手話について知ってもらい、聴覚障害者に対する理解を広めるための、幼稚園、保育園、小学校等における「手話での絵本の読み聞かせ」活動の実施 2. ろう児童に大人の聴覚障害者と交流する機会を与え、自分の将来について考えるきっかけを与えるとともに、保護者に聴覚障害者の実状を知ってもらい、聴覚障害者に対する理解を深めてもらうため、ろう児とその保護者との自然体験キャンプの実施 3. 災害時の聴覚障害者の支援のために、関係団体と協力して聴覚障害者の安否確認訓練、市町村の防災訓練への参加、<u>A3リーフレットの作成及び配布</u> (別添)、市町村及び地域へ聴覚障害者の理解の普及活動への取り組み

提案内容の実践事例・先進事例

団体名 (一社) 日本民営鉄道協会

分類	① 自団体が実践している取組事例 ② 他団体による先進的な取組事例
区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p>①・駅係員や乗務員をはじめとした社員について、お年寄りやお体の不自由なお客さまなど、どなたでも安心して鉄道をご利用いただけるよう、歩行の介助や車いすの操作、目の不自由な方への手引きなど、電車の乗り降りや駅構内の移動を適切にケアされる方と同じ目線に立ち、お手伝いできるサービス介助士資格の取得を推進しているほか、救急救命講習も積極的に進めております。</p> <p>・勉強会や研修を実施して社員の意識向上に努めております。</p> <p>②・高齢者および身体障害者などの移動制約者の方々が、安全に身体的負担の少ない方法で鉄道をご利用いただけるよう、駅施設の整備改善に努めてきたところであり、今後ともバリアフリーに関する基本方針や交通バリアフリー基準及びガイドラインに基づき、ハード・ソフト両面からバリアフリー化を推進してまいります。</p> <p>・多機能トイレ等のバリアフリー設備。ホームの内方線付き点状ブロックの整備。ホームのかさ上げなどにより駅における段差解消の整備。低床の新造車両の導入、車両の更新に伴う車両のバリアフリー化整備。車内に車いす・ベビーカースペースの増設、設置車両の内外にピクトグラムの掲出に努めております。</p> <p>・国土交通省が実施している「鉄道利用マナーUPキャンペーン」や「公共交通機関等におけるベビーカー利用に関する協議会キャンペーン」「子育てにやさしい移動に関する協議会」などを他の鉄道事業者等と連携して参画し、お客さまが快適にご利用いただけるようマナー啓発に努めております。</p> <p>・お年寄りやお体の不自由な方、妊娠されている方、乳幼児をお連れの方が優先的にご利用いただける優先席を設置するとともに、車内放送や駅・車内中吊りポスター、車内ステッカー、広報誌などの各種媒体を活用してお客さまへの啓発活動に努めております。</p> <p>③・神奈川県みんなのバリアフリー街づくり条例に基づき、事前協議を行い整備基準に適合するよう整備に努めております。</p> <p>④・障害者団体への聞き取り調査やお客さまから寄せられるご意見やご要望を参考にしております。また、地域公共交通バリア解消促進等事業に基づき、事業を行うにあたり協議会を設立し、関係する方々の意見を伺い計画に反映できるように努めています。</p>

提案内容の実践事例・先進事例

団体名 日本チェーンストア協会関東支部

分類	① 自団体が実践している取組事例 ② 他団体による先進的な取組事例
区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p>1. 車椅子マーク駐車場 総数28台分のうち、9台は車椅子利用者専用とし、事前登録者に開閉操作リモコン貸与。残り19台はほかの障害者、高齢者、妊婦の利用も可（全体の駐車台数は2,700台）</p> <p>2. お問合せコール 売場が分からない、聞きたいことがあるなどの場合、問合せするインターフォンを16カ所に設置（入口、売場内）</p> <p>3. 貸出し用車椅子 各入り口、インフォメーションに30台を分散設置</p> <p>4. 車椅子利用者用の買物カゴ、車椅子連結買物カート 膝に載せ、ベルトで腰に固定する小さめの買物カゴ クリップで車椅子に連結できる買物カートを各入口に設置</p> <p>5. エスカレーターの低速運転 通常速度の2/3程度の分速20Mで運転</p> <p>6. 階段の色分け 弱視者や白内障気味の高齢者が識別しやすいよう踏み板、蹴上板を3色に色分け</p> <p>7. 多目的トイレ 男女別2カ所、男女共用8カ所、合計10カ所 大人用簡易ベッド、仕切りカーテン、オストメイト2カ所など</p> <p>8. カラーゾーニング 広い店内を4色に色分けし（駐車場、ES・EV・階段など）、居場所を分かりやすく</p> <p>9. ゆったり試着室 衣料品売場に広めでフラット、ベンチシート設置の試着室2カ所 車椅子利用者、ほかの障害者、高齢者、妊婦、子ども連れ向け</p> <p>*開店前に地元の障害者団体を招き、店舗設備見学・説明会を開催 また開店前に手話講習会開催、入門・初級レベル者約20名を配置</p>

提案内容の実践事例・先進事例

団体名 日本チェーンストア協会関東支部（株式会社東急ストアの事例）

分類	① 自団体が実践している取組事例 ② 他団体による先進的な取組事例
区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p><u>正しい認知症の知識を持った従業員による、認知症患者のお客様への対応と、地域見守りネットワークへの参加</u></p> <p>1. 2017年12月に神奈川県内の店舗で発生した、認知症患者のお客様による商品の持ち出しをきっかけに、全社的に認知症のお客様への対応について取り組みを開始。 2018年3月から、従業員やお取引先を対象に認知症サポーター養成講座を開催、2021年2月現在養成したサポーター数は2,702名、講師の資格であるキャラバン・メイトは4名</p> <p>2. 従業員は認知症サポーター養成講座の受講で終わる事ではなく、所轄の地域包括支援センターとの連携で、認知症患者の方、あるいは、認知症患者と推察されるお客様へのお声掛けと地域包括支援センターへの連絡により、安全・安心なお買い物をしていただけるように努めております。</p> <p>3. 店舗の空きスペースを利用した高齢者・認知症患者の方のイベント実施や認知症カフェへのお手伝いを実施し、地域での見守りネットワークに貢献できるよう努めております。 <u>※2020年度はコロナ感染防止のため、中止しております。</u></p>

提案内容の実践事例・先進事例

団体名 (一社) 神奈川県バス協会

分類	① 自団体が実践している取組事例 ② 他団体による先進的な取組事例
区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p>1 交通バリアフリー教室の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関東運輸局（神奈川運輸支局）が実施する県内の小学生を対象とした交通バリアフリー教室に会員バス事業者のノンステップバスを提供し、高齢者疑似体験や車いすを使用した介助体験等を通じ、バリアフリーについての理解、ボランティアに関する意識の醸成等「心のバリアフリー社会」の実現に向けて協力している。 ・ 令和元年度は交通バリアフリー教室に7回参加した。 <p>2 バス乗り方教室の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内の小学生を対象として、バス優先席やベビーカーに対する理解を深めてもらうため、バス乗り方教室を平成26年度から実施し、令和元年度は18回行った。

提案内容の実践事例・先進事例

団体名 東日本旅客鉄道(株)横浜支社

分類	① 自団体が実践している取組事例 2 他団体による先進的な取組事例
区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p>① への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーに係る体験型の勉強会や訓練、研修等を実施して社員の意識と知識の向上に努めています。 ・ホスピタリティ向上のため、社員のサービス介助士の資格取得を推進しています。 <p>② 及び③ への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターの整備をはじめ、段差の解消に努めています。2019年度は津田山駅、2020年度は桜木町駅新南口、横浜駅南部高架下のエレベーターが供用開始となり、現在は倉見駅の施工を進めています。また多機能トイレは2019年度に津田山駅、2020年度に桜木町駅新南口、武蔵白石駅、横浜駅南部高架下を整備し、現在は倉見駅の施工を進めており、お客さまに安心してご利用いただく取組を実施しています。 ・ホームには、お客さまの転落や列車との接触などの事故防止のため、列車非常停止警報装置、転落検知マット、内方線付き点状ブロック、ホームドアといったさまざまな安全設備を整備しています。ホームドアについて県内では、京浜東北・根岸線の鶴見駅、桜木町駅、東神奈川駅、横浜駅、関内駅、新子安駅、横浜線の淵野辺駅への設置が完了し、現在は京浜東北線の川崎駅の施工を進めています。今後も国及び自治体のご協力のもと、整備を推進しホーム上のさらなる安全性向上に努めていきます。 ・社員による誘導案内の強化や接遇向上等のソフト対策を推進しています。お困りのお客さまに対して社員や周囲のお客さまにもご協力をお願いする「声かけ・サポート」運動や「プラットフォーム事故0運動」、「やめましょう、歩きスマホ」等のキャンペーンを各社局と共同で実施しています。 ・共生社会の実現へ向けて、障害当事者やその介護者を招いて講演会を開催し、社員の意識向上に努めています。 <p>④ への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「公共交通機関の旅客施設に関する移動等円滑化整備ガイドライン」に沿って整備し、バリアフリー化の推進に努めています。 <p>⑤ への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元自治体と調査・設計段階から綿密な調整を行い、お客さまや地域の皆様が安心・快適にご利用いただける計画を策定しています。

提案内容の実践事例・先進事例について

団体名 神奈川県手をつなぐ育成会

分類	① 自団体が実践している取組事例 ② 他団体による先進的な取組事例
区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p>〈名称〉知ってほしい・知っておきたい -知的障害と「警察」- (B5版 55頁冊子)</p> <p>〈目的〉知的障害に関わる事件が起きた時に、加害者あるいは被害者として、また不審者や行方不明者として、お世話になることの多い警察向けに作成された。知的障害者が、犯罪の被害者にならないよう、また軽微な事件で刑務所へ送られることがないよう、そして取調べや裁判で、不当な取扱いを受けないことを願って、より一層の理解をお願いしたく、全国手をつなぐ育成会連合会・権利擁護センターが作成した。</p> <p>〈内容〉・警察に知ってほしいこと ・親として知ってほしいこと などが、それぞれ具体的に記されている。</p> <p>〈今後の活用〉 本会会員が、県内の警察署にお持ちして説明し、理解が進むよう活動している。</p>

提案内容の実践事例・先進事例について

団体名 神奈川県手をつなぐ育成会

分類	① 自団体が実践している取組事例 2 他団体による先進的な取組事例
区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p>〈名称〉わかりやすい情報提供のガイドライン（A4版 8頁冊子）</p> <p>〈目的〉知的障害により、文字を読んだり、内容を理解することにむずかしさを持つひとたちが、一般のひとたちと同じように、様々な情報を得て、生活を豊かに生きられるように、支援するためのガイドラインを全国手をつなぐ育成会連合会・本人活動支援委員会が作成した。</p> <p>〈内容〉・文章について ・レイアウトについて それぞれ具体的に記されている。</p> <p>〈今後の活用〉 本会会員が、各方面に配布して、活用を促す。</p>

提案内容の実践事例・先進事例

団体名 神奈川県

分類	① 自団体が実践している取組事例 ② 他団体による先進的な取組事例
区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p>親子ふれあい講座「バリアフリー探検隊」(茅ヶ崎保健福祉事務所)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 20 年より、地元の小学校と協力し、高学年の児童及びその保護者を対象として、障害当事者による講演のほか、障害当事者とともに、車いす体験や、街なか探検等さまざまな体験をする事業を毎年実施している。これまでの参加回数は 5 回、参加者は延べ人数で児童 74 人、保護者 62 人にのぼっている。 平成 26 年度は、県民会議によるモニタリングの結果を踏まえ、アイスブレイクの導入や、実際のユニバーサルデザイン製品の使用など、実施方法を工夫した。茅ヶ崎市内の小学 4～6 年生とその保護者を対象に、児童 9 名、保護者 9 名の合計 18 名が参加した。 平成 27 年度は、「ユニバーサルデザイン親子体験講座 2015」と題し、将来、地域でユニバーサルデザインのまちづくりを支える人材の意識啓発を図るべく、茅ヶ崎市内の小学 5・6 年生児童及びその保護者を対象に、ユニバーサルデザインに関する内容説明や高齢者擬似体験のほか、日本介助犬協会から講師及び介助犬を招き、介助犬体験を行った。参加者は、児童 10 名、保護者 12 名の合計 22 名であった。 参加者の感想からは、障害当事者の存在を意識しながらの体験ゆえに、ユニバーサルデザインを人ごとではなく実感を持って感じられたことがうかがえた。

提案内容の実践事例・先進事例

団体名 神奈川県

分類	① 自団体が実践している取組事例 ② 他団体による先進的な取組事例
区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p>平成 25 年 9 月 7 日、2020 年（平成 32 年）オリンピック・パラリンピック競技大会の開催地が東京に決定したことを受けて、県では、平成 26 年 8 月、「オリンピック・パラリンピックのための神奈川ビジョン 2020」を作成し、2020 年に向けて県が取り組もうとする様々な施策の設計図を示した。</p> <p>その中に、「障害者や高齢者など配慮を必要とする方々にやさしい地域づくりを進めるため、バリアフリーのまちづくりに向けた普及啓発に取り組む」ことを明記している。</p> <p>この設計図を基に、2020 年を目標に、それぞれの取り組みを加速していき、「世界に誇れる神奈川の姿」を作り上げて発信していきたいと考えている。</p> <p>「オリンピック・パラリンピックのための神奈川ビジョン 2020」 第 II 章 神奈川からオリンピック・パラリンピックを盛り上げていく取組み 4 神奈川の人づくり <目標> ●2020 年までに オリンピック・パラリンピックの開催を契機として、県民の誰もが国際感覚を持ち、健康でいきいきと暮らせる地域社会をつくります。 ●そのために 市町村や地域のコミュニティと一体となって、グローバルな感覚を持ち、行動できる人づくりのための取組みを推進します。</p> <p><取り組みの柱> ① 市町村・地域と一体となった地域社会づくり 障害者や高齢者など配慮を必要とする方々にやさしい地域づくりを進めるため、バリアフリーのまちづくりに向けた普及啓発に取り組みます。</p>

提案内容の実践事例・先進事例

団体名 神奈川県

分類	① 自団体が実践している取組事例 ② 他団体による先進的な取組事例
区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画

内容	<p>事例の内容</p> <p>平成 26 年度以降、これまで別々に実施していた、建築士などの専門家等「カラーバリアフリー支援者」を対象としたカラーバリアフリー研修と、市町村職員や社会福祉協議会職員といった「地域福祉推進支援者」を対象とした研修とを「一体型研修」として実施し、多彩な県民が共に参加して学べる裾野の広い地域福祉研修の機会を提供する体制を整備した。</p> <p>行政職員や社会福祉協議会職員、地域包括支援センターや介護事業者、民生委員・児童委員や介護支援専門員、カラーバリアフリーに関心のある建築士など多岐に渡る受講者の関心を惹きつけ、例えば、広報紙やチラシなどを作成する機会が多い民生委員・児童委員や介護支援専門員が、カラーバリアフリーにも留意した対応が期待できる。</p> <p>また、さまざまな地域づくりの担い手が一堂に会することとなった結果、単なる資質向上にとどまらず、新たなネットワークが生じ、重層的な地域福祉の仕組みづくりにも役立つと考えられる。</p> <p>開催日時 平成 30 年 7 月 9 日 (月) 開催場所 産業貿易センター B102 号室 参加者数 45 名</p>
----	--

事例 19

提案内容の実践事例・先進事例

団体名 神奈川県

分類	<p>① 自団体が実践している取組事例 2 他団体による先進的な取組事例</p>
区分	<p>① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画</p>

内容	<p>事例の内容</p> <p>建築士及び建築関係業務従事者（建築主を含む）施設管理者等を対象に、福祉のまちづくりやバリアフリー、ユニバーサルデザイン等に対する理解を深めることを目的とし、平成19年度より、神奈川県、横浜市、川崎市で持ち回り、企画、運営を行っている。</p> <p>なお、本研修会は日本建築士会の「建築士会継続能力開発（CPD）制度」認定講習会として実施している。</p>
	<p>開催日時 令和3年3月1日（月）～令和3年3月3日（水）</p> <p>開催方法 オンライン</p> <p>参加者数 93名</p> <p>内容</p> <p>（1）「当事者目線のバリアフリー設計」 講師：吉田 紗栄子氏 （特定非営利活動法人高齢社会の住まいをつくる会 理事長／ケアリングデザイン一級建築士事務所 代表）</p> <p>（2）「障がい当事者の日常生活からみえるバリアと求められる配慮」 講師：小野 和佳氏 （自立生活センター 自立の魂 ～略して じりたま！～）</p> <p>（3）「色覚の多様性とカラーバリアフリーの実践」 講師：田中 陽介氏 （特定非営利活動法人カラーユニバーサルデザイン機構 副理事長）</p>

事例 20

提案内容の実践事例・先進事例

団体名 神奈川県

分類	<p>① 自団体が実践している取組事例</p> <p>2 他団体による先進的な取組事例</p>
区分	<p>① バリアフリー教育の充実</p> <p>② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解</p> <p>③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して</p> <p>④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み</p> <p>⑤ 施設の計画段階における関係者の参画</p>

内容	<p>事例の内容</p> <p>県では、「県民のみなさんが快適に利用できる満足度の高い施設」を目指し、トイレ等におけるバリアフリー化の一層の推進、アメニティの改善やユニバーサルデザインの促進など、施設価値の向上（バリューアップ）に取り組んでいる。</p> <p>平成24年度に実態調査、25年度に現地調査を実施し、平成26年度には、本庁舎2階、3階、4階の西側トイレを「みんなのトイレ」に改修した。</p>
----	---

事例 21

提案内容の実践事例・先進事例

団体名 神奈川県

分類	<ul style="list-style-type: none"> ① 自団体が実践している取組事例 2 他団体による先進的な取組事例
区分	<ul style="list-style-type: none"> ① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画

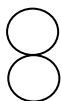
内容	<p>事例の内容</p> <p>県は、「神奈川県みんなのバリアフリー街づくり条例」等で、車いす使用者用の駐車区画について、標識や案内板の整備方法等の基準を定めている。</p> <p>この基準では、区画内の路面や、立て看板などについて、見分けやすい色の組み合わせを用いて、わかりやすく表示することとしている。</p> <p>現在、県の合同庁舎や県民利用施設での車いす使用者用駐車区画の数は、およそ350区画ほどあり、そのうち1割程度は既にカラー塗装を行っている状況である。</p> <p>車いす使用者用駐車区画のカラー塗装については、一般の方に周知を図る上でも、県有施設で率先して実施していくことは意義のあることだと考えており、今後とも、障害者の利用の多い施設などから、順次、カラー塗装を進め、車いすを使用している方が安心して駐車できる県有施設をめざしていく。</p>
----	---

事例 22

提案内容の実践事例・先進事例

団体名 認定 NPO 法人神奈川子ども未来ファンド

分類	<p>1 自団体が実践している取組事例</p> <p>② 他団体による先進的な取組事例</p>
----	---



区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p>「ダンボふれあいバザー」 ★横浜市保土ヶ谷区和田 「福祉を考える会」 ○障がい者地域作業所ダンボがオープンした1990年、地域にバリアフリーの種蒔きをしようと「福祉を考える会」が発足し、ふれあいバザーをダンボと共催することになりました。例年11月23日に開催しています。23年間途切れることなく続けることで、年々参加者・理解者が増えてきて、当日のボランティアだけで300名を超えるほどとなっています。近隣の小中学校も初回からの参加で、今では小中学生の力がバザーを支えているほどです。地域作業所での作業体験コーナーや製作した物品を販売するなど、バンド演奏も交えながらの楽しい交流の場となっています。</p> <p>○バザーには民生委員さんの協力を得て、地域のひとり暮らしの高齢者を招き、中学生がおもてなし係りを担当しています。また、収益金の一部を神奈川子ども未来ファンとを通じてNPO活動団体に寄付したり、被災地支援へも寄付しています。身近な地域作業所ダンボと所員（障がいのある人たち）との交流を通じて、子どもたちやご高齢の方々へと心のバリアフリーが広がっています。</p> <p>○近くの小学校の個別支援級では70時間を使った単元学習、なかよし大作戦「人っていいな」をテーマに『ダンボふれあいバザー』を取り上げているそうです。人と関わる体験を通して、自分や友だちの良さや人と関わることの良さに気づき、自信を持って生活しようとする意識を子どもたちに芽生えたとのこと。昨年のバザーで、人との関係性を持てなかった児童が笑顔で「ありがとう」を言っていた姿が忘れられないと担当の先生がお話されていました。</p> <p>○心のバリアフリーは、条例や施設など形を整えても取り除くことは難しいのではないのでしょうか。ダンボふれあいバザーのように、地域の方々の地道な努力と積み重ねが、互いを大切にする「人っていいな」との意識を醸成していくのではないかと思います。</p>

事例 23

提案内容の実践事例・先進事例

団体名 神奈川県

分類	1 自団体が実践している取組事例 ② 他団体による先進的な取組事例
----	--------------------------------------



区分	<ul style="list-style-type: none"> ① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p>聴導犬に関する普及啓発活動（NPO法人聴導犬育成の会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「聴導犬育成の会」は、鎌倉市に所在するNPO法人で、聴導犬の育成及び普及、聴導犬希望者の個人負担の軽減、捨て犬の救済、聴覚障害者への理解に関する活動を行っている。 ・同会は、さまざまな場所で聴導犬のデモンストレーションを行って、実情を説明することにより、聴導犬の普及啓発に努めている。 ・地域のイベント等に多数参加しており、中でも、小中学校や高校での講演やデモを積極的に行い、バリアフリー教育の充実に貢献している。 ・「バリアフリーフェスタかながわ2013」では、聴導犬のデモンストレーションやPR犬とのふれ合い等を通じ、聴導犬の普及啓発活動を行った。

事例 24

提案内容の実践事例・先進事例

団体名 神奈川県

分類	<ul style="list-style-type: none"> 1 自団体が実践している取組事例 ② 他団体による先進的な取組事例
----	--



区分	<ul style="list-style-type: none"> ① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p>知的障害・発達障害の子ども達への理解者を増やすための公演活動 (座間キャラバン隊)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「座間キャラバン隊」は、座間市・大和市に所在する知的障がい・発達障がいの子どもをもつ母親たちの集まりである。 ・知的障がい・発達障がいを知ってもらう「きっかけ作り」として、母親ならではのアイデアが詰まった公演を行い、心のバリアフリーの普及啓発に積極的に取り組んでいる。 ・同団体は、2003年に結成し、主に神奈川県県内・関東地方を中心に、小学4年生から大学生、教員、施設職員、行政職員、一般市民などを対象にこれまで300回ほどの公演を行っている。 ・遠隔地の方にも活動内容が浸透するように、DVDや本を出版し、知的障がい・発達障がいについて積極的に普及啓発を行っている。

事例 25

提案内容の実践事例・先進事例について

団体名 神奈川子ども未来ファンド

<p>分類</p>	<p>① 貴団体が実践している取組事例 ② 他団体による先進的な取組事例</p>
<p>区分</p>	<p>① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画</p>
<p>内容</p>	<p>事例の内容 ○神奈川県子ども未来ファンドは神奈川の子ども・若者の育ちや孤立しがちな子育てを支えるNPOの活動に市民から寄付を募り、助成をしています。助成する団体にはその時代の子どもたちのバリアが垣間見られます。最近では在日外国籍の子どもたちの言語や文化理解の学習支援や生活困窮世帯の子どもたちの高校受験支援などへの助成申請が増えています。2014年度に助成した団体は、在日外国籍の子どもたちの日本語教室や児童養護施設の子どもたちの学習支援など。言語や貧困、虐待など、どれも子どもの育ちにとって大きなバリアとなっており、ますます増加する一方です。</p> <p>2、バリアフリーの取り組みにかかわる新たな動き等ございましたら、情報提供をお願いします。</p> <p>○様々な障がいのある子どもたちも周囲の理解を得られず苦闘しています。NPO法人 まなの樹は、発達障がいとその周辺域とされる子どもたちの学習指導などの活動をしています。周囲の人には努力が足りないと思われたり、勝手な行動をすると叱られたり。その特性が分かりにくいために誤解を受け、深く傷ついている子どもたちが少なくありません。学習指導を通して見えてきた課題に対応するために、子どもの特性別にフィットした教材を開発し、関係者がダウンロードできるデータベースを作成するなどの活動を積極的にしています。互いの理解を生むための先進的なバリアフリー教育に取り組んでいる事例といえます。</p>

提案内容の実践事例・先進事例について

団体名 神奈川県

分類	① 貴団体が実践している取組事例 ② 他団体による先進的な取組事例
区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p>「さいとうさんち」などの居場所運営による地域福祉への貢献 (地域のお茶の間研究所さろんどて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域のお茶の間研究所さろんどて」は、茅ヶ崎市を中心に活動しており、地域に歩いて行ける「地域のお茶の間」を提供することを目的に誰もが集える居場所を運営している。 ・空き家を利用した「さいとうさんち」には性別、障がい、国籍、を問わず、様々な人が訪れ、そういった方々の「居場所づくり」として、心のバリアフリーの普及啓発に積極的に取り組んでいる。 ・2012年から活動を開始し、2015年には「さいとうさんち」には、1600名以上の参加があり、定期的に参加する利用者も増えている。 ・また、ボランティアとして活動できる人を輩出するため、傾聴講座を開催している。

提案内容の実践事例・先進事例について

団体名 神奈川県

分類	① 貴団体が実践している取組事例 ② 他団体による先進的な取組事例
区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p>音楽活動による知的障害者の就労支援（NPO 法人 Music of Mind）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Music of Mind」は、藤沢市に所在するNPO法人で、音楽活動を中心として事業所を運営することにより、知的障がい者が地域社会において自分の意思で活動できる場を創出している。 ・同団体は、障がいのあるなしにかかわらず、共同で活動を行っており、県や市・福祉施設などの主宰するイベント等に積極的に出演し、障がいへの理解を広げるための普及啓発に積極的に取り組んでいる。（例として「バリアフリーフェスタ 2016」に出演し、ステージ上でコンサートを行った。） ・音楽活動のほかカフェを開き、そこで演奏を行うほか、料理作りの作業も共同で行い、自立支援を行っている。

提案内容の実践事例・先進事例について

団体名 神奈川県

分類	① 貴団体が実践している取組事例 ② 他団体による先進的な取組事例
区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p>視覚障がい者向けサービスとメイクセミナー開催 (株式会社ファンケル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社ファンケルは横浜市に本社を置き、化粧品事業や健康食品事業等を行っている。 ・同会社は触れることで商品の区別ができるよう、点字ではない独自のシール(「タッチマークシール」)を開発し、化粧品購入者の内希望者に渡している。 ・また、自宅でも自分で再現できるよう、講師のレクチャーを聞き、受講者が実践する形式の視覚障がい者向けメイクセミナーを開催している。 ・こうした取組みを子会社の視覚障がいの社員の意見を取り入れながら進めている。

提案内容の実践事例・先進事例について

団体名 神奈川県

分類	① 貴団体が実践している取組事例 ② 他団体による先進的な取組事例
区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p>障がい者の社会参加支援・共生社会づくりへの貢献 (特定非営利活動法人 湘南バリアフリーツアーセンター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者でも海に行くことができるようにするイベント「バリアフリービーチ」の開催から活動が始まり、海水浴に限らず、障がいを理由に諦めていることの実現を目指し、活動を行っている。 ・海水浴の体験を提供するバリアフリービーチをはじめとしたイベントの開催している。 ・また、観光の際に必要なバリアフリー情報の提供や、バリアフリー調査等を実施している。

提案内容の実践事例・先進事例について

団体名 神奈川県

分類	1 貴団体が実践している取組事例 ② 他団体による先進的な取組事例
区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p>多感覚で楽しむアート展「美術館まで（から）つづく道」 （公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団 茅ヶ崎市美術館）</p> <ul style="list-style-type: none"> 茅ヶ崎市美術館では、企画展の実施の一環で、障がい者等のアーティストと一緒に美術館を歩いた経験から、インクルーシブデザインの手法をアートに応用して、視覚、聴覚、触覚、嗅覚から感じる新たな作品を作りあげている。 また、展示会開催にあたり、音声読み上げに対応したQRコードの設置や、手で触れて楽しむ展示など、展示方法の工夫を行い、障がいがあっても自然に参加できるような運営を行っている。 こうした取組みは、他の美術館やギャラリーでの展示にも影響を与えている。

提案内容の実践事例・先進事例について

団体名 神奈川県

分類	① 貴団体が実践している取組事例 ② 他団体による先進的な取組事例
区分	① バリアフリー教育の充実 ② 多様な人が住まう「街」への気づきと理解 ③ 安心して暮らし、出かけられる「街」の実現を目指して ④ 条例適合率・遵守率向上に向けた取組み ⑤ 施設の計画段階における関係者の参画
内容	<p>事例の内容</p> <p>小田原バリアフリーマップ作成による優しい街づくりへの挑戦 (神奈川県西地区リハビリテーション連絡協議会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーマップの作成にあたり、車椅子ユーザーをはじめとする当事者や、商店街、一般市民などを巻き込んで調査会を実施することで、当事者と街が交わるきっかけを作り、街に住まう人々のバリアフリーへの意識向上につながっている。 ・また、調査会の実施や、バリアフリーマップの作成により、車椅子ユーザーの外出のきっかけづくりを行っている。

地域にいる

聴覚障害者、盲ろう者の事を知ってください

聴覚障害者(聞こえない、聞こえにくい人)や、盲ろう者(聞こえない、聞こえにくい+目が見えない、見えにくい人)は、地域の中で生活していますが、周囲の方々のコミュニケーションが難しく、生活上不便や困難を感じていることもたくさんあります。

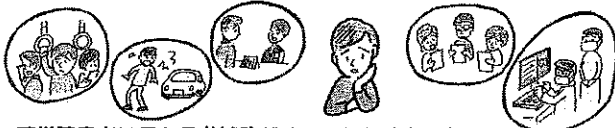
特に災害が起きた時は音や声による情報が伝わらないため、とても困ります。

皆さんの理解とちょっとした手助けがあれば不便なことや困難なことが減り、暮らしやすくなり、災害が起きた時も安心できます。

1. 聴覚障害者が不便、困難に感じていること

以下のようなことに不便、困難を感じています。

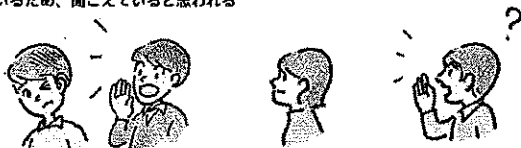
- ①行政や銀行の窓口、病院の受付で話がなかなか通じなくて時間がかかる
- ②自治会や学校のPTAなどの集まりで、周りの人とコミュニケーションがうまくできない
- ③電車が急に止まった時、理由がわからず不安になる
- ④医師・看護師とのコミュニケーションに困る
- ⑤狭い道路で後ろからくる車や自転車に気が付かないので、危険な目にあいやすい



2. 聴覚障害者は見た目(外観)だけではわかりません

聴覚障害者は見た目(外観)だけでは聞こえない(聞こえにくい)ことがわからないため、気づいてもらえず、以下のように誤解されることもよくあります。

- ①声をかけられても気づかないため、無視したと思われる
- ②補聴器を付けているので、大きな声なら聞こえると思われる
- ③普通に話せているため、聞こえていると思われる



3. 盲ろう者が不便、困難に感じていること

盲ろう者が不便、困難に感じていることは、左のことに加えて、以下のようなことがあります。

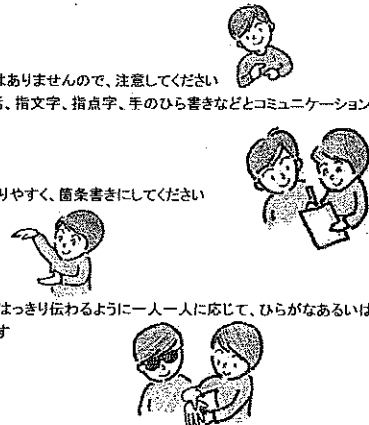
- ①音や光などの情報が入らないため、周囲の状況がわからず、状況に応じた判断、対応が困難である
- ②一人で外出することが困難である



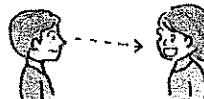
4. 聴覚障害者、盲ろう者とのコミュニケーション方法

聴覚障害者、盲ろう者とコミュニケーションするには、いろいろな方法があります。その人に合わせた方法をお願いします。

- (1) 手話・触手話・接近手話
 - ・聞こえない人皆、手話ができるわけではありませんので、注意してください
 - ・盲ろう者は一人一人触手話、接近手話、指文字、指点字、手のひら書きなどとコミュニケーション手段がまちまちです
- (2) 筆談
 - ・手話がわからないときによく使います
 - ・日本語が苦手な人もいますので、わかりやすく、箇条書きにしてください
- (3) 身振り
 - ・体、手の動きや形で伝えます
- (4) 手のひら書き
 - ・手のひらに文字を書いて伝えます
 - ・盲ろう者に伝えるときよく使いますが、はっきり伝わるように一人一人に応じて、ひらがなあるいはカタカナでゆっくり書くなど配慮が必要です



この他、正面を向いて、ゆっくり、口の動きがはっきり見えるように話す方法もあります



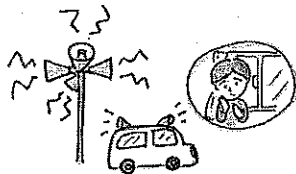
災害時における聴覚障害者、盲ろう者の事を教えてください

1. 災害が起きた時や避難所で困ること

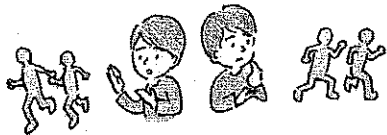
①大雨、川などの増水、
火事などの音が聞こえません



②防災無線や広報車、
館内放送が聞こえません



③状況がつかめず、
どうしたらいいのかわかりません



④避難所で物資や食料の配給
などの情報が伝わりません

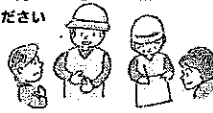


⑤周囲の人と
コミュニケーションが困難です



2. 災害が起きた時や避難所で支援してほしいこと

①聴覚障害者に対しては文字や絵など
目で見てわかる方法で、
盲ろう者に対しては手のひら書きなどで
伝えてください



②何が起きているのが伝えてください



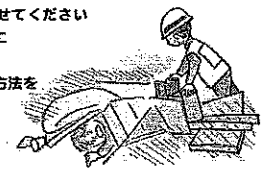
③どうすればいいのが教えてください



④放送されている内容や情報を
文字で伝えてください



⑤救助に来たときは光など目でわかる方法で知らせてください
盲ろう者は、光や音で伝えても救助が来たことに
気づきにくいことが多くあります
事前に当事者と相談するなどして確実に伝わる方法を
決めておくようにしてください



⑥手話通訳者、要約筆記者、盲ろう者通訳・介助員
の派遣制度を活用してください

発行：聴覚障害者災害対策支援神奈川県本部
公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会、神奈川県中途失聴・難聴者協会、神奈川県盲ろう者ゆりの会、
神奈川県手話通訳者協会、神奈川県要約筆記協会、神奈川県手話サークル連絡協議会、社会福祉法人
神奈川県聴覚障害者総合福祉協会（神奈川県聴覚障害者福祉センター）
上記7団体を構成団体とし、神奈川県域の聴覚障害者に対する、災害対策を検討しています。
問い合わせ先（事務局）
神奈川県聴覚障害者福祉センター 住所：〒251-8533 藤沢市藤沢 939-2
電話：0466-27-1911、FAX：0466-27-1225
Email: office@kanagawa-wad.jp 発行日：平成 29 年 3 月